

研究所ニュース No.96

りべらしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388
FAX 092-645-0387 E-mail:info@f-jinken.com URL:http://www.f-jinken.com/

2019年8月22日(木)～23日(金)

第38回九州地区部落解放史研究集会 in長崎

— 長崎人権研究所設立40周年記念 —

第38回九州地区部落解放史研究集会—長崎人権研究所設立40周年記念—が、8月22日(木)～23日(金)に長崎市の長崎大学教育学部本館棟22番教室で行われました。九州地区部落解放史研究連絡協議会主催。

九州地区部落解放史研究集会は、スタート以来、一貫して部落解放史研究・部落解放史学習の確かで豊かな内容を創造することをめざしてきました。近年の部落解放史研究の深化はこれまでの部落史に対する認識を大きく変えてきています。そのことを踏まえた報告がなされました。

第一日は13:00から開会行事がありました。全体進行はNPO法人長崎人権研究所の梅崎純司さん。地元からNPO法人長崎人権研究所理事長の石村榮一さん、来賓として、部落解放同盟長崎県連合会委員長の山口渉さんと長崎県人権教育研究協議会会長の土手野

和広さんがあいさつを行いました。

報告1として、NPO法人長崎人権研究所の阿南重幸さんから「部落問題とは何か」と題して提起されました。その中で、「差別」を考えるうえで日本の歴史をあらかじめ4期に分けて、それぞれの時代に主要な「差別」意識の背景と「呼称」を中世—「ケガレ」(触穢観)、近世—身分制度としての差別、近代—「人世三宝」説と異民族差別、現代(戦後)—貧困 民主主義から除外された人々、と整理しました。

報告2として、佐賀部落解放研究所の中村久子さんから「近世の民衆と差別—佐賀の部落史史料から—」と題して提起されました。佐賀藩多久家資料、諫早家資料、対馬藩資料などについて、被差別民の支配構造・差別の実態を詳細に分析

しながらの報告でした。

第二日は、講演と全体討議です。

講演は、NHK制作の「原爆と沈黙—長崎浦上の受難—」の上映と講演でした。制作の際に取材に対して色々と難しい問題もあったようでしたが、部落差別の解消、人権教育の推進と原爆問題の解消に向けて制作された強い意思が表現されていたように感じられました。

全体討議では、解放運動活動者や人権・同和教育推進者などから多くの質問があり、回答にも熱が入っていました。

最後に、花田昌宣九州地区部落解放史研究連絡協議会会長からまとめがあり、二日間を締めくくりました。

2020年度第39回九州地区部落解放史研究集会は、大分県の予定です。

(理事：塚本 博和)

2019年9月13日(金)

第69回北九州人権フォーラム21 市民講座
公益社団法人福岡県人権研究所 第2回人権啓発担当者のつどい
ネット上の部落差別の実態と課題
～インターネット・モニタリング事業について～
講師 細見 義博さん(NPO法人スマイルひろば・事務局長)

2019年9月13日(金)、北九州市立男女共同参画センター(ムーブ)で標記の講座がありました。講師の細見善博さんは、尼崎市職員をへて、現在 NPO 法人スマイルひろば事務局長/部落解放同盟尼崎神崎支部書記長として活躍されています。

(写真：講演の様子)



当日配布されたレジメには「尼崎市インターネット・モニタリング事業 差別が蔓延(はびこ)るネットの世界への挑戦」というタイトルがつけられていました。

講演では、インターネット上の差別書き込みの事例として、細見さんが実際に解決にかかわった「尼崎インターネット差別書き込み事件」の経緯と具体的内容、これに対する取り組みについて語られました。

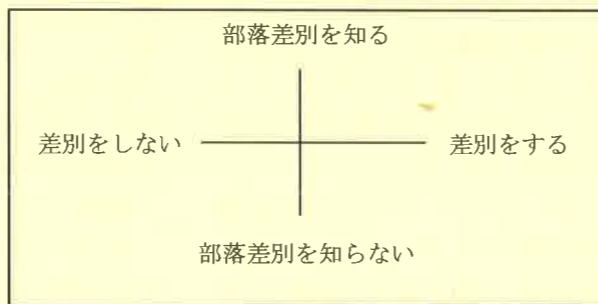
インターネットの普及とともに拡大している差別書き込みには近年各地の研修会でも報告されているように、あからさまな被差別部落の地名・画像・人名の暴露、マスコミで報道された事件との根拠のない関連づけ、「同和地区」忌避と新たな偏見と差別意識を生み出す文章やかえ歌の掲載等、さらに悪質化しています。そして成人のみならず小・中学生が学校で正しい知識を学ぶ前にスマホ等により更新し続ける悪質な情報に無防備に触れてしまう状態になっています。このような経緯をへて、NPO を立ち

上げ、インターネット差別を監視し悪質な書き込みを除去していくモニタリング事業について説明されました。

尼崎ではモニタリング事業を公益社団法人尼崎人権啓発協会に委託し、毎週監査や削除要請の取り組みが行われています。今後の課題としては対象サイトの有効な割り出しとモニタリング体制・スタッフの充実、被害者救済の具体策構築、インターネット上での人権啓発、地方自治体間のネットワーク化等が挙げられました。

続いて、「出会いの場・スマイルひろば」の諸行事や取り組みについて、ここに関わり活動する仲間の具体的な姿とともに説明がなされました。

また、モニタリング研修の内容としてWS 4つの領域シート>を活用した部落認識・差別に対する姿勢・行動の捉え方についてワークショップ形式で考え深める時間がとられました。下の4つの領域の中に私たちが出会った事象や取り組み、今後の展望等を書き込み、交流していくことで差別の質や取り組みの様相が明確になっていくことがわかりました。(下:WS4つの領域シート)



尼崎市インターネット・モニタリング事業ならびに「出会いの場・スマイル広場」における取り組みや成果は、差別が蔓延(はびこ)るネットの世界への挑戦であり、人と人が新たな次元でつながっていく人権文化創造の事実として福岡で活動する参加者に多くの示唆と勇気を与えてくれました。

これからは近年の情勢の変化・新たな人権課題に対応しつつ、2016年12月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」ならびに全国に先駆けて施行された「福岡県部落差別の解消の推進に関する条例」(2019

年3月1日施行)を実効あるものとして各地域で活用し、具体的な取り組みを構築していくことが急がれます。

(啓発部会員:山口 裕之
マザー・アース代表)

ア/ン/ケ/ー/ト/カ/ラ

○具体的な現代の差別の現状と取り組みについて学べた。モニタリング等の差別解消に向けた具体的な取り組み、組織的活動で行っていく差別解消、教育や啓発で浸透させていくもの、各世代に対応する内容整理等、より具体的な実践的な対応をさらに強化したいと思う。小・中学校からのインターネット差別に関する授業実践を強化したい。

○尼崎市におけるインターネット上でのモニタリングは、とても効果的であると思った。職員研修なども具体的に内容を進めているため、受ける側にとってはとても参考になると思った。色々な形で色々な立場からひとりひとりが差別をなくすために行動をしていくことが大切です。

○事例・事件は憤りを感じる内容でした。インターネットはこわいです。でも、差別はなくさないといけないという思いを強くしました。モニタリング研修は素晴らしい取り組みだと感じました。単に知識に終わらず、体感する考えようということはいいと思います。

○自分の顔も名前も知られることがないというインターネットの書き込みは本当に怖いと思います。自分の無責任な言葉が罪のない人を傷つけていることに気づかない。差別をしているつ

もりはないが差別につながる発言をする。そして、それに気づかない。小学校でもケータイゲームでのトラブルは、本当に多いです。子どもたちには、自分の言葉にしっかりと責任をもつことができるように指導し、正しい知識を身につけて欲しいと考えます。そのためにも、私たち自身がしっかりと知識をもって言葉に責任をもたなければならぬと感じた。

○インターネットの急速な進歩・普及に伴うインターネット上の部落差別の実態の概要を理解できた。北九州市でも尼崎の取り組みを参考に早期の課題に取り組むべきだと思う。問題が大きくなってからでは遅い。

○細見先生が行っているようなグループ討議の積み重ねが人権感覚を磨くと思いました。「ベストアンサーを考える」というテーマ、若い人々には取り組みやすいだろうと感じました。私も差別はあると思うし自分も差別しているかもしれないと常に意識しています差別を見抜き「それは差別です。」と言えるように人になれるようこれからもアンテナを張っていきたいと思います。

(編集の都合上一部略したものとあります)

< 好評発売中 >

← フックレット菜の花21

内田博文著『部落差別解消推進法
～よりよい活用のために～』

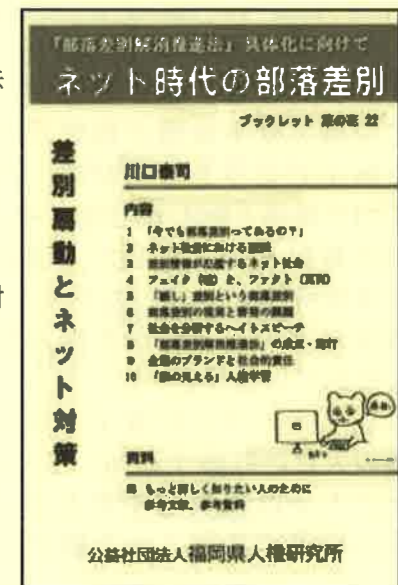
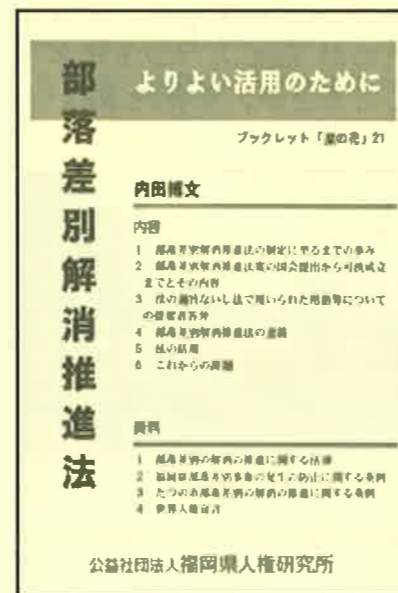
(頒価: 500円+税/会員2割引)

フックレット菜の花22 →

川口泰司著『差別扇動とネット対
策～ネット時代の部落差別～』

(頒価: 600円+税/会員2割引)

読みやすい! わかりやすい!
使いやすい! 研修テキストに!



講演会案内「内戦を逃れても～シリア難民女性と子どもにおきたこと～」

本多須美子 (ほんだすみこ) 外国人部会/アジア女性センター

【日 時】2020年1月11日(土) 13:30～16:00 (開場 13:00)

【場 所】福岡市男女共同参画推進センター・アミカス2F視聴覚室
(福岡市南区高宮3-3-1、西鉄天神大牟田線高宮駅西口そば)

【講 師】松永 晴子さん(認定NPO法人国境なき子どもたち「KnK」)

【定 員】45名(要申込/先着順)/託児あり(500円/人・要予約)

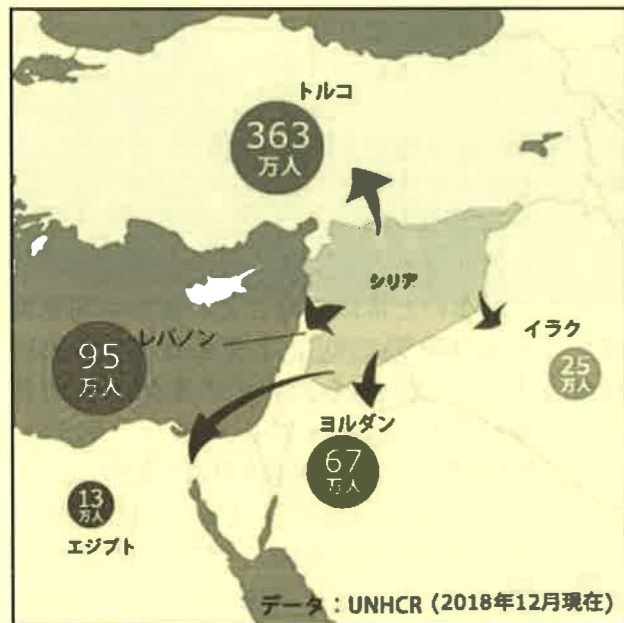
【資料参加費】1000円

【申 込】アジア女性センターまでメール、電話あるいはFAXでお申し込み
ください。<申込み切1月9日(木)>

◆メール: awc-a@atlas.plala.or.jp

◆TEL&FAX: 092-513-7333 (平日9時～17時)

【主 催】アジア女性センター 【共催】(公社)福岡県人権研究所外国人部会



(引用: <https://www.amnesty.or.jp/landing/refugee/syria.html>)

2011年にエジプトで始まった民主化運動「アラブの春」は中東各国に広がり、シリアではアサド政権が爆撃など軍事力で運動を制圧しようとした結果、民間人を殺戮し国内が戦場と化しました。そして560万もの国外難民を生み出しました。国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) のデータが示すように、隣国などで不自由な生活を強いられている人たちがいます。

シリアの南に位置するヨルダンは、高知県の人口に匹敵する67万人を受け入れました。人々は親戚宅や都市のアパートの他、国連主導で設立された難民キャンプで生活

しています。ザアタリキャンプは、2012年にヨルダン国内で作られた難民キャンプで、国境から15キロほど離れた砂漠にあります。その頃首都アンマンに住んでいた筆者は、賃貸物件の家賃の値上がりや通りで物売りする子どもたちの増加を肌で感じていました。

地理的に中東の真ん中にあるヨルダンは、隣国の紛争で難民が流入してきたところでもあります。1948年以降には大量のパレスチナの人たちが、1990年代には米国による攻撃でイラクの人たちが避難してきたという歴史があります。

講演会で報告いただく認定NPO法人「国境なき子どもたち」(KnK)は、2011年当時イラク難民支援を行っていました。イラク難民の子どもたちのためのKnKイベントのボランティアに参加したことが、筆者のKnKとの出会いでした。

ザアタリキャンプでは、女性と子どもの家庭も多く、学校のドロップアウトや児童婚なども報告されています。



ザアタリキャンプ内の様子

写真提供: 国境なき子どもたち (KnK)

どんな過酷な状況下でも家族を大切に、人をもてなすアラブの人たち。一度でも甘い紅茶と一緒に飲み食事を囲めば「家族」として接してくれます。松永晴子さんには、活動の内外で向き合った女性と子どもたちの実情を報告していただきたいと思います。

「アラブの春」から8年たった今、シリアについての報道も減りました。シリアへ帰還する家族もいると聞きます。遠く離れた国のことだから、日本では関係ないでしょうか? 遠く離れた私たちにできることは何か? 一緒に考えてみませんか?

申込は、「アジア女性センター」(左ページ参照)まで。



講師: 松永 晴子さん

日本、ベトナムで美術教師を務めた後、JICA青年海外協力隊としてヨルダン、パレスチナ難民キャンプで美術教育に携わる。2014年からKnKで活動を始め、2015年よりヨルダン駐在のシリア難民支援現地事業総括として、子どもたちの教育支援を行っている。2018年にはその活動が、TV番組「情熱大陸」で紹介された。

<報 告> 2019年10月5日(土)～10月6日(日)

「ハートフルフェスタ福岡2019」

福岡市の人権啓発フェスティバル「ハートフルフェスタ福岡2019」が10月5日(土)～6日(日)の2日間開催されました。5日(土)は「あいろん8階」で人権に関する講演会などがありました。

本研究所は、6日(日)西鉄ホール会場前のブースで、研究所の紹介と事業を展示しました。また、研究所のリーフレットや主催行事案内、『リベラシオン』173号(LGBTQ特集)や関係の資料なども机上に並べました。

当日西鉄ホール会場であった講演・映画上映前後に見学され、リーフレットやチラシ類を持ち帰られる方も多かったです。(事務局)



2019年度「史実と授業・啓発の結合をめざして」11・16(土)

日 時: 11月16日(土)13:00(受付) 13:30 開会～16:30

会 場: 福津市文化会館カメラシア視聴覚室 TEL 0940-52-3321

内 容: 「近現代史の授業実践に向けて」

- ①説明「欧米化と新たな差別の指標」 迫本 幸二さん(本研究所事務次長)
- ②研究報告「福岡におけるコレラ騒動と差別」 関 儀久さん(本研究所理事)
- ③実践報告「世代をつなぐ職員研修～地域の歴史をきっかけに～」
藤芳 正俊さん(福津市立小学校)
- ④シンポジウム司会 池間龍三さん(「人権教育プロジェクト代表」)

受講費(資料代を含む): 1000円/会員500円

問合せ: 公益社団法人福岡県人権研究所(092)645-0388 担当: 峰

＜報告＞第2回外国人部会
2019. 9. 21(土)
『NORY18歳の青春:故郷を離れ
この国に生きる』

講師: 林内 隆二さん(外国人部会員)
会場: 北九州市コムシティ3階

9月21日(土) 林内隆二さんを講師として第2回外国人部会は標記のタイトルで行われました。会場は北九州市八幡西生涯学習総合センター(コムシティ)3階で、参加者は16人です。(写真:講師の林内隆二さん)



林内さんは『リベラシオン』誌上で「ちょっといい話」(最新号で27話)を連載しておられ毎号楽しみにして

いらっしゃる方も多し、と伺っています。現在は北九州市内の定時制高校で特任講師としてNORYさんの授業をサポートされている方です。

日本語を母語としない子どもや、外国籍の母親が日本語を話しても読み書きが不自由であると、その子どもたちは教室で日本人の子どもたちとはまた別の苦勞をしています。生活で話される言語と教室で使われる言語が違うからですが、これは私たち日本人には言われないと分からないことでもあります。

母親がフィリピン人であるNORYさんは、授業に林内さんが付き添って各教科を学んでいます。毎回新しいことを学ぶのですから教科の内容を理解することも大変ですが、

増えた知識につれて覚えるべき漢字も増殖します。日本語の背景にある文化と自分の文化との相違もあり、林内さんという強力なサポーターがついていても彼女の勉学の苦勞は並大抵でないようでした。昼間は働きながら夜は学校に通っていますが、それでも成績は優秀とのことで、感心しました。最近では学ぶ楽しさを感じて、自分と同じような境遇の子どもたちを支援するため大学でさらに学びを続けたいと言っているそうです。一方林内さんの方にも、大学に入学できる実力がついたと冗談を言われるほどで、こちらにもまた大変な苦勞があるようでした。

福岡県には「県立高等学校入学者選抜帰国生徒等特例措置」があり、NORYさんの父親が学校に問い合わせたところ、小倉南高校は早速サポート体制に着手され、特任教師の申請・募集に動いたそうです。そこに林内さんが応募されてNORYさんの入学以来お二人の2人3脚の努力があるわけです。

NORYさんの他、林内さんの前任校の外国籍の生徒たち6ケースも紹介されました。1人はまだ3年在籍中(1年後の卒業確定)、卒業した生徒は3人で中退は2人。離婚などで父親不在、いても入学式にも出てこないなど子どもの教育に不熱心の場合、卒業は難しいようでした。

外国籍の若い人たちの小学校・中学校など義務教育における日本語教育の重要性は最近注目されてきましたが、お話を伺って、高等学校教育においても授業についていくことが保障される支援システムが必要だと思いました。

(外国人部会長: 松本 京子)

＜お知らせ＞(詳細は同封のチラシ参照)

福祉レストランゆずのきより
李政美/山口裕之ジョイントコンサート
「すべてのいのちがいとおいしい」
日時: 2019年11月15日(金) 11:30～
ランチの後ジョイントコンサート
前売り券: 3000円/当日券: 3500円
会場: 『ゆずのき』福岡市西区姪浜駅南 1-10-11
予約/問合せ: 090-1190-8457 山口裕之さん

第10回 特別支援教育に関するセミナー
—発達障がいのある児童・生徒への支援—
日時: 2019年12月9日(土) 9:20～16:00
会場: 九州産業大学 参加費: 無料
内容: 基調講演 伊藤美奈子さん(奈良女子
大学教授臨床心理相談センター長) / 分科会
主催: 福岡子どもたちのセーフティネット研究会
問合せ: 立花高校 濱本さん Tel. 092-606-2792

＜会員の声＞
「命と宝の旅」①
～沖縄戦から基地問題に学ぶ～

(会員) 廣瀧 隆太
* 廣瀧さんの投稿は、分けて掲載します。

○ はじめに

青い海、白い砂浜、三線の音色、国際色豊かな文化、安室奈美恵…。沖縄を形容する言葉には心踊らされるものが多い。訪れるたびに、沖縄の自然に魅了されていった。しかし、戦争、6.23、基地問題、わたしには知らない現実もあった。

私が勤務している小学校の隣の席の先生との日常会話から、沖縄の話題をすることが多かった。6.23のことも沖縄の地上戦のことも辺野古基地問題のことも詳しくはわからない私は、家に帰ってインターネットで調べることにした。検索した結果、ネット上では、大きく違うことが書いてあった。辺野古基地は「防衛のためには仕方ない」「普天間の安全のためには辺野古へ移設すべき」etc…どう解釈すればいいのだろうと迷いをもった。自分たちの国を守るために辺野古に基地を建設すること、普天間基地周辺に住む人たちの生活を守るためには辺野古移設はやむを得ない、それがネットでの世論になっている。辺野古基地建設への反対意見は全くといっていいほど見られない。真実は何なのか、74年前の沖縄戦からひもといてみよう

(1) 沖縄の基地問題

沖縄にはたくさんの米軍基地がある。1945年の敗戦後、日本は武器を持たないかわりに日本各地に米軍基地が置かれた。日本国土の0.6%にすぎない沖縄に、日本にある米軍基地の74%が集中している。沖縄の面積全体の20%が米軍基地として使用されている。

米軍基地があることで、「騒音問題」「米軍兵によるさまざまな事件」「墜落(落下)事故」など、米軍基地関連の問題と隣り合わせで生きている。基地周辺では最大時で120dbの騒音がある。エンジン近く、近くで起こった落雷、聴力機能に障害が起こるレベルである。米兵による事件は、43年間で5896件、年間137件、月に11件…。2016年にウォーキング中の女性が米軍に殺害されたことは記憶に新しい。この数字が検挙された件数であることを考えると、本当の件数はもっと多そうだ。墜落・落下事故は43年間で676件にものぼり、年平均で15.7件。保育園や小学校、落下物は場所を選ばない。「住宅街にある普天間基地は世界一危険だから、

辺野古へ移す。」という声を聞く。辺野古に移すことで普天間の危険は回避できても、危険そのものが辺野古に移動しただけではないだろうか。「沖縄にある基地問題」が「沖縄の問題」で終わっている。本当は日本全体の問題ではないだろうか。なぜ、沖縄ばかりに基地が集中しているのか歴史的背景について学んだ。(件数に関しては、辺野古に基地を造らせないオール沖縄会議作成動画より)

(2) 74年前の沖縄戦

「戦争」と聞いてどんなイメージがあるだろうか?空から飛行機が飛んできて爆弾を落とす、海上で大きな船が撃ち合う、地上で戦車で撃ち合う…戦争は政治的な目的達成をめざして(領地や物資の確保など)軍事力を駆使して戦う。民間人が巻き込まれることはないはずだが、沖縄では大きく違う戦争が起こった。それは、沖縄本土に米軍が上陸し、民間人が命を守るために武器をとり、米軍と戦ったということ。

1945年4月1日、米軍が沖縄本土に上陸し、沖縄を占領した。日本本土へ進出するために沖縄に基地をつくる必要があった。手っ取り早く、もともとある飛行場を日本軍から奪い取ってしまおうということで、日本軍の中飛行場(ちの嘉手納飛行場)をめざし、北谷～読谷村の海岸あたりに1800隻もの軍艦が上陸した。コバルトブルーの静かな海に浮かぶ1800隻もの軍艦を見て、当時の沖縄の人たちは何を思ったのだろう。

米軍は、飛行場を安全に維持するためには、日本兵を沖縄本土から一掃してしまわないといけない。しかし、日本軍は飛行場を破壊し、戦わずあっさり中飛行場を明けわたした。米軍はエイブリーフルフルか!?と疑ったという。日本軍の作戦は、太平洋戦争で進撃を続けてくる米軍が迫ってきて、日本が守らないといけないのは、沖縄ではなく、日本本土。人や物資が不足している中で、日本本土戦に備えて沖縄で「持久戦」をすることだった。つまりは沖縄戦は「捨て石」だったということになる。

(次回「97号」に続く)

会員募集
A会員
B会員(ブックレット会員)
公益社団法人福岡県人権研究所
【会費と会員特典】
A会員 年会費 6,000円
機関誌『リベラシオン』年4冊
B会員 年会費 3,000円
ブックレット『葉の花』年1冊(他、加入時1冊)
特典 ①ニュース「リベラシオン」の配布(年6回)
②当研究所主催研修会の参加費の減額
③当研究所所蔵の図書・史資料の利用 等
Human Rights Human Rights

事／務／局／日／誌／か／ら (2019年9月1日～10月29日)

9月

- 1 日 宗像地区「同和」教育研究集会(福津市／図書販売)
- 3 火 第16回事務局会
- 7 土 第6回教育部会(福岡市)
- 10 火 第17回事務局会
- 13 金 第2回啓発担当者のつどい兼北九州人権フォーラム21第97回市民講座(北九州市)
- 14 土 第4回部落史研究部会(兼史・資料プロジェクト)(古賀市)
- 15 日 第5回啓発部会(福智町)
- 17 火 第17回事務局会 第105回松本・井元研究会
- 19 木 「ハートフルフェスタ福岡2019」説明会(福岡市)
- 21 土 第2回外国人部会(北九州市)
- 24 火 第19回事務局会

10月

- 1 火 第20回事務局会 編集委員会
- 2 月 海外人権スタディツアーinベトナム打合せ
- 4 金 松本治一郎新資料整理⑥(福岡市)
- 6 日 「ハートフルフェスタ福岡2019」研究所展示(福岡市)
- 8 火 第21回事務局会 第106回松本・井元研究会
- 12 土 第5回部落史研究部会(兼史・資料プロジェクト)(古賀市)
- 14 月 福岡女性史・ジェンダー史講座(福岡市／図書販売)
- 15 火 第22回事務局会 上期定期監査
部落解放研究第53回全国研究集会(名古屋市／～17日(水))
- 16 水 全国研究所交流会(名古屋市／新谷理事長、原田所長)
- 18 金 第18回八幡(含む北九州市)企業内同和問題研修推進委員会研修会(福岡市)
- 19 土 第58回福岡県人権・同和教育研究大会(飯塚市)
- 20 日 役員選考委員会
- 26 土 九州地区部落解放史研究会事務局会(熊本市)
- 29 火 2019年度啓発担当者のための人権講座(福岡市)

※ 住民意識調査や実態調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請・報告や公益法人関係事務、関係機関・団体との連携・調整事務等については一部省略しています。(場所を示していないものは、研究所事務局で行っています。)

図 書 紹 介 『2018年度 史・資料プロジェクト報告集』

部落史研究部会／史・資料プロジェクトの報告集です。2015年度、2016年度、2017年度に続く今年度の研究テーマ、活動方針は以下の3点です。「はじめに」より

1. 1970年代からの解放運動を、現代の「部落差別解消推進法」(2016年)まで研究します。
また、その間の運動の大きな節目となった事柄を中心に、研究を進めます。
2. 年次的な研究とともに、これまでの研究によって明らかになったさまざまな課題について、課題別テーマも設定して研究します。
3. そのため県内の優れた研究者、教育や行政現場の実践者を毎回お招きしてお話をお聞きします。
(2018年度に開催した9回分を報告集としてまとめて編集されています。)

頒価：500円 申込は公益社団法人福岡県人権研究所まで

